

佛の對日摩擦は一層激化するかも知れない。日本は之に關して「汕頭の占據は單に軍事的目的を有するのみにて第三國に對して何等の攻撃を行ふものに非ず」と云つてゐる。併し之によつて日本の南支支配力は頗る強化せられるのであらう。

一、ボネ佛外相は閣議に於て一般外交政策に關し報告を行ふが、この際天津事件及英佛ソ協定交渉に觸れるべく、注目されてゐる。

二、昨日東京に行はれた有田クレイギー日英會談は多大の注目を擴はれてゐる、有田外相は支那事變の遷延は英の援蔣に依ること大なるが故に、之を停止することが軍部の目的なる旨、及今後蔣の背後に於ける援助は何たるか、何時たるを問はず斷乎排撃する旨傳へたと云はれる。

英は又極東に於てソ聯を援助せんとしてゐるが之は英自身にとり頗る危険なる旨も警告したと云はれてゐる。

一、米國海軍は過般の米潛水艦沈没の原因には機械的故障を發見し得ざりしに依り殘ることあり、サボタージユのみが其原因と目されるに至つたと報じてゐる、事實米海軍部内は可成りコムニストが勢力を振つてゐるので、之は考へ得られる事である。



内閣情報部六・二四

情報第一號

重慶U・P新聞電報放送(二十日)

(朝鮮總督府遞信局聽取)

一、市政府は六月三十日以降阿片吸引者に對しその習慣を改め「精力を建設的方面に向ける」ことを強制する蔣介石昨日の布告を實施するに本日本童となつてゐる。政府は阿片小賣商人十軒、御賣店舖九軒の即刻閉店を命令した。警官は重慶「保甲」組織(註一相互保障制度)の助力を借り耽溺者が惡習を改めたかどうかを確めるために戸別調査を行つてゐる。吸引者は公衆保健局によつて市内外各所に設けられた病院へ送られ、治療薬を施されることにならう、治療費は大重慶建設計畫を遂行する労働團に編成される筈である。本日庶民には禁煙期日が十日後なることに注意を喚起し、習慣抛棄の意義と必要を説明した告知書が送られ、職やボスターが全市の街路に現はれ、無数の傳單が撒かれた、以前省立病院で毎月六百名の中毒者を治療してゐたが、五月四日の爆撃で破壊された爲現在は臨時病院が使用されてゐる。政府の統計によれば昨年禁煙運動が開始される迄重慶には五萬人もの吸引者がゐて、毎月六、六七〇封度の阿片を消費してゐたといはれる。

二、支那側報道によれば過去五日間の豪雨で福州市街の半分が水浸しとなり、南門地區では浸水二呎、閩江は氾濫して航行は停止されてゐると。

290



内閣情報部六・二四 情報第二號

上海ロイテル新聞電報放送

(朝鮮總督府遞信局聽取)

六月十九日

天津報

イギリス工部局參事會長A・E・テイバーは本日ロイテルとの會見に於て(イギリス工部局はイギリス租界内にストックされた小麥粉を租界外へ搬出することを禁止した、これは日本に對する挑戰的手段である)と當地の新聞に掲載された日本側報道を全然否定し、工部局は今年になつてかゝる禁止令を課したことはなく、食糧運搬を希望する者を阻止或は妨害したことは決してないことを述べてゐる。尙彼はこの聲明を裏書する爲に封鎖の第一日には小麥粉一萬袋と米七十八俵が租界より搬出され、又六月十五日には小麥粉一萬七千袋と米九百五十俵が搬出されたことを示す有効な報告書を見せた。更に封鎖實施の企圖が明らかになつた六月十三日には小麥粉九十一袋と米九百俵がイギリス租界より搬出された、六月十六日以降の報告書は未だ完成してをらないが、小麥粉及び米の搬出は依然繼續されてゐる、その搬出速度が緩慢になつたとしても、それは移送に何等の制限も課してゐない、工部局の責任ではないこと。

291